

教育理念	学ぶ楽しさを知り、自ら学ぶ力と豊かな人間性を身につける
目標(テーマ)	・基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業 ・学ぶ楽しさを体験する科学の授業で、生涯を学ぶ人に ・自觉めよ！自自力。早期にやりたいことにチャレンジ ・目標の実現をサポートする教育システムの提供

※評価基準…A:達成できている。B:どちらかと言えば達成できている。C:どちらかと言えば不十分である。D:不十分である。

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善方針・今後の課題	
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方について、教職員間で共有できている。	A	・教育課程は、標準モデル科目は科目履修記録できるように編成され、履修科目変更時に教員からの提案を行っている。 ・レポートに対する生徒の理解度及び把握に際し、進捗時に生徒の理解を深められるようフォローアップを行っている。	・面接指導においては、引き続き、科目担当者を中心に精神的、学力面に合わせた対応、体制にしている。	
		教育目標	生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた支援・指導を行っている。	B	・スクーリングでは体調面に配慮した実施方法を取り入れている。	・基礎学力が不十分な生徒へは既存の「ルネサンスうたげ」でなければいけないというハードルを下げたい。また、教員からは学校の学習の進捗を確認し、各学年・学期に追加してオンラインでのレポート支援の提供をサポートしたい。	
	教職員連携	組織運営	本部及び本校の校務分掌や主任体制などが適切に機能するなど、学校の運営・責任体制が整備されている。	A	・組織運営や校務分掌、各主任及び主任体制が適切に運用されている。また、新任教職員に対しての校内研修を適時に実施している。	・株式会社立の特性を生かし、情勢の変化に即応する体制を整えている。	
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築され、教育活動が行われている。	A	・教員と事務職員との連携を密にし、お互いにフォローのできる体制がとれている。	・本校、豊田駅前キャンパス、名古屋学芸大学との関係での情報共有を減らすためのオンラインを活用した打ち合わせを実施して更なる教職員連携に努める。	
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解及び連携がとれている。	A	・定期的な職員会議や部門会議(進路・生徒指導、事務職会議等)を開催し、情報共有、意見交換の場設定が行われている。		
		会議の有効性	職員会議・スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効率的に機能している。	A	・各部門会議を定期的に実施し会議を開催する体制づくり、意思統一を図った。		
	財務関係	学校設置会社の役員及び株式の状況	学校設置会社の役員及び株式の状況が事業報告書に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。	A	・学校設置会社の経営及び財務に関する状況が適切に記載され、法令に則して公開されている。		
		学校経営に必要な財務等の状況	学校に必要な財務等の状況が事業報告書に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。	A	・就学支援金については、適正に執行されている。 ・自治体によって仕組みの違いがあるが、姉妹校による情報共有等を行い、迅速な対応ができる体制をとっている。	・学校事務職員による就学支援金業務の習熟しており、学校事務職員で適正に処理がなされている。	
		高等学校等就学支援金	高等学校等就学支援金に係る事務を適切に執行している。	A			
	施設・設備	面接指導等を実施する施設及び設備	面接指導等を実施する施設が事業報告書に記載されている。面接指導等を実施した施設・設備が教育上、適切である。	A	・面接指導等は、教育特区地域内の学校、自校施設で行われている。また、自校施設では、本校教職員による生徒指導、進路指導等が適切に行われている。	・自校施設における役割(学習支援、課外活動等)の更なる充実を行っていく。	
自校施設		自校施設を事業報告書に記載している。自校施設では学習面、生活面の支援を行う。	A	・課外活動等の内容について豊田、栄の2拠点での実施により内容の充実を図った。			
危機管理	役割分担	事故・事件・災害などに対する連携及び役割分担が明確になっている。	B	・関係各所(警察・消防・学校医など)の連携はとれている。また事故、事件、災害時の校内体制も整っている。			
	安全管理	学校内の安全点検管理及び諸活動が実施されている。	B	・方が一の災害等に備え、教職員だけでなく、生徒も参加した避難訓練を計画し、実践している必要がある。	・危機管理意識を高めるために半期に1度、全体研修を実施する。		
	危機管理対応状況	危機管理マニュアルに基づき、市役所、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれている。	B	・個人情報管理については、プライバシーの確保を重視しており、研修を行っている。引き続き情報漏洩防止の為、危機管理意識を高める研修を行ってきたい。	・避難訓練を学校安全計画に位置付け、生徒が体験的に理解できるように計画的に実践し、方が一の災害等に備える。		
	個人情報管理	生徒情報管理が適切に行われている。	A				
教育内容・支援	面接指導・進路指導等	スクーリング参加状況	年間スクーリング日程計画に基づいた参加促進を行う。	A	・生徒評価を基に、スクーリング実施日程や面接授業内容を再検討し、更なる顧客満足度を高めていくよう努めた。	・適切な面接指導時間を確保するとともに、指導内容の一層の充実(創意工夫)を図る。	
		スクーリング内容(面接授業)	各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心を高められる授業を展開している。	A	・スクーリングの授業内容については、学ぶ楽しさ、発見する喜びを知ってもらうことを意識した面接授業を行っている。	・精神的、体力的に不安がある生徒への支援体制(生徒指導主事・保健主事を中心)を更に強化していく。	
		レポート内容・添削	レポートが学習成果(興味・意欲・関心)につながる内容になっている。また、インターネットを活用した添削結果の返信がないよう、計画的な業務を行っている。	A		・レポート内容については新学習指導要領に沿った内容しながら生徒の学ぶ意欲を高めるようカリキュラム委員会を設置、各教科で教科会を実施し内容の充実を図る。	
	情報発信	ネット回線の有効活用	生徒対象の「ルネ高マイページ」保護者対象の「保護者マイページ」やブログ、SNSでのタイムリーな情報提供を行っている。	A	・ルネ高マイページより、学校イベントなどの情報提供を行い、情報発信、情報収集についての生徒・保護者もインスタグラム、ツイッター、ブログを取り入れている。動画による学校、教職員の様子を継続して行っている。	生徒、保護者のニーズに即した情報提供ができるよう対応を大切に、教職員間の情報共有に努める。	
		個人に対する効果的な情報提供	「ルネ高マイページ」にて、生徒個々の学習進捗確認ができ、保護者マイページからも同内容を確認できる。	A	・生徒及び保護者向け情報提供ツールとして、定期的な発行(週刊)「ルネ高マイページ」レポート進捗状況案内を発送し、家庭との連携を図っている。		
	情報教育	情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させる。	A	・学習ツールとしてスマートフォン、タブレットを導入しており、情報機器、情報収集についての知識を身に付けている。情報の対面授業では、SNS活用や標準ゲームの危険性に関して重点をおきながら取り組んでいる。	SNSから発生する事故や事件の可能性が高まっているため、引き続き特別活動や情報の授業等で発信し更に知識を高める必要がある。	
		情報モラル指導	情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取り組む。	A			
	生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定など)を高める。	A	・スクーリング以外での生徒フォローを、名古屋学芸大学、豊田駅前キャンパスを活用し、イベント、二者・三者面談を通じた。 新規高卒就職希望者の早期の行動から2018年度より就職者が増加した。	・定期的な進路相談、生活相談が教員と生徒、保護者が対面式でコミュニケーションを取ることができ環境を整えている。
			教員の共通認識と研修	学校組織に基づき、生徒が安全に課外活動ができるよう共通認識にて運営している。また、生徒の実態に応じたテーマにて、計画的な研修を実施している。	B	2者・3者面談の機会を増やし、家庭での課題、今後の方針など家庭との共有・連携を密に取ることができた。	・希望進路実現へ向け、就職面では就職後の長期的な定着ができるよう2020年度よりキャリアカウンセラーを配置する。
			家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活が送れるよう支援していく。	A		
進路指導		キャリア教育について	キャリア教育(進路指導)に取り組む体制が整備され、生徒の自立に向けた取組みが実践されている。	A	希望進路実現(進学・就職)に向け、定期的な面談1回につき、3日間で2度行い、早い段階で方向性を固めて動くよう努めている。スクーリング中の進路相談で将来について考える時間を取入れている。	キャリアカウンセラーとの連携を行い、勤務観、目標の設定確認を行える体制にする。その後のフォローを教員で行い、生徒の目標に応じた進路実現ができるようサポートする。	
		保健指導	健康の保持増進について	心身ともに健康であるための支援(定期連絡やスクーリング時における授業にて支援)	B	スクーリング時の保健・特別活動にて、「健康」をテーマとした学習を実施した。家庭への連絡頻度も増やし生活習慣の見直しを提案を行った。	在宅時でも活かせる健康増進を充実し、生命の尊重・いじめ防止・いじめ被害防止に意識を高められるテーマを掲げ取り組んでいく。
その他	教職員研修	教職員研修	教職員の資質向上を図るため、計画的な研修を実施していく	A	・校内研修だけでなく、他校の授業参加を通じ、教員の質の向上を図った。オンラインによる研修を毎月実施し、法令・企業観などを高められるようになった。	・他校の授業を見学など外部との交流・研修の機会を持ち資質向上を図る。	
		学校関係者評価	計画的に実施し、教育の質の向上や学校運営の改善に向け、計画的、継続的に取り組み、開かれた学校づくりを進めている。	C	学校関係者評価を計画していたものの、急な担当者変更により実施ができなかった。 次年度は適切に行い、開かれた学校づくりを進めていく。	関係者・外部からの質の高い運営を目指していくとともに、公開に向けた準備をしていく。	
		他校及び関係機関との連携	姉妹校や自治体間との交流等をもとに、開かれた学校づくりを行っている。	B	他校の授業に参加し、授業の質を高められるよう努めた。姉妹校・自治体との交流も継続的に行っている。	他校・姉妹校との情報共有(先進事例)をし、よりよい授業、生徒対応ができるよう努める。	